第5号
2013年1月1日

郵政産業ユニオン TOKYO・NEWS

● 発　　行 ●
郵政産業労働者ユニオン
東京地方本部
発行責任者　　鵜島　一広
〒104－0031
中央区京橋3-6-3
京橋通郵便局 5F

2013年 ふみだそう一歩

２０１３年がスタートしました。雇い止めにおびえることなく働きたい。８時間働いたらまともな生活が出来る給料がほしい。定年は勿論、６５歳まで働ける職場環境が必要だ。などなど、職場の要求は年々切実です。要求実現に向けてみんなで一歩前に踏みだす年にしましょう

郵政グループに働く期間雇用社員は１９８，４９４人（昨年４月現在）にもなります。その多くが１日８時間働いても年収２００万円にも満たない収入で生活しています。会社の恣意的評価でスキルが下げられ、一方的な労働時間の削減や雇い止めに不安が耐えません。

期間雇用社員の年休は、日頃の人員不足から完全取得が出来ずに捨てているのが現状です。また、正社員化も、これまでのたたかいで一歩前進したものの逆流が強まり正社員の道は狭められています。

正規も非正規も

いま、多くの企業で残業代が支払われない違法な「サービス残業」が横行しています。私たちの職場でも、人件費削減を叫び「今日は超勤ナシ」と予め超勤を規制しています。そのため、昼の休憩時間を含むただ働き広がり、そのうえ、昨年強行した「休息時間の見直し」は休息時間を奪う結果となっています。

年々増える「営業」目標は自爆営業を引き起こし、昨年も年賀はがきが発売日に金券ショップの店頭に並び社会的批判を受けています。そして、営業の締め付けがパワハラやいじめを誘発しています。

黙っていられない

職場の人間関係や労働条件を崩壊し、競争と格差を拡大する「新人事・給与制度」の導入が提案されています。これも黙ってはいられません。これらの職場の要求解決は年々切実で緊急なものとなっているだけに、みんなで団結し、一歩前に踏み出しましょう。